

～自分の住む場所だけは大丈夫！と思っていないか～
地震災害時の行動を確認しよう

まず何をすべきかを知り、自分の地域の避難所を確認しましょう。また家族内の連絡方法や待ち合わせ場所なども確認しましょう。

災害時の行動

地震発生



身の安全確保

- ・火元の確認・家族の安否確認
- ・非常持ち出し品の用意
- ・靴を履く

情報収集

- ・ラジオなどで情報入手



避難

一時避難地（地区集会所・近くの公園など）へ
避難し、防災活動

- ・初期消火 ・住民の安否確認 ・救出、救助
- ・救護活動 ・自主防災組織本部の設置
- ・高齢者や障がいのある人の避難支援



自宅が焼失・全半壊



自宅が無事

避難所（小中学校など）のグラウンドに集合

自宅で生活



避難所の体育館で避難生活



わたしたちの自主防災組織

三島パサディナ自治会長 勝又 鐵男さん

パサディナ地域の地形上の特異性から地震発生後の対応は、組または班単位にならざるを得ないため、各組に防災リーダー、連絡員、消火救出隊長、救護搬送隊長を設置し、役員の研修会を実施しています。



また、地域の実情に沿った内容で独自の「地震防災マニュアル」を作成し全戸配布しています。日ごろから住民の防災意識を高めるとともに防災訓練については、基本的な訓練から地域の特異性を踏まえた訓練になるよう徐々にステップアップしていきたいと思えます。

避難所一覧

避難所	避難対象自治会名
東小学校	大社町・東本町1丁目・東本町2丁目・日の出町・東町・南二日町（伊豆箱根線路東側）・大宮町2丁目・川原ヶ谷・雪沢
西小学校	加屋町・清住町・三好町・西本町・栄町・西若町・緑町・南町・広小路町・泉町・寿町・本町大中島・本町小中島
南小学校	南本町御殿・南本町高台・北田町仙台・北田町・中田町北・中田町南・南田町・富田町・かわせみ・南本町新御殿・南二日町（伊豆箱根線路西側）
北小学校	文教町1丁目・合同宿舎文教住宅・幸町・幸原町・サンステージ町田
錦田小学校	小山中島・小山・谷田・御門・竹倉・玉沢・谷田城内・東富士見・西富士見・並木・柳郷地・ヴァンヴェール遺伝坂・柳郷地市営住宅・市営谷田住宅
向山小学校	夏梅木・中・錦が丘・北沢
山田小学校	若松町・西旭ヶ丘・青葉台・山田・旭ヶ丘・山田住宅
坂小学校	台崎・元山中・市山新田・三ツ谷・笹原・山中・箱根坂・玉沢（奥山）
徳倉小学校	徳倉第1・徳倉第2・徳倉第3・徳倉第4
沢地小学校	富士ビレッジ・沢地・千枚原・光ヶ丘1丁目・光ヶ丘3丁目・光ヶ丘県営住宅・光ヶ丘市営住宅・富士見台
北上小学校	萩・徳倉第5・徳倉第6・エンゼルハイム芙蓉台
佐野小学校	佐野・見晴台
中郷小学校	梅名・中島・八反畑・鶴喰
長伏小学校	長伏・御園
錦田中学校	押切・桜ヶ丘・遺伝研・愛宕・緑ヶ丘・塚原・阿部野・塚の台・小山台・塚原台・シャリエ三島松が丘・松が丘・塚原下原
南中学校	青木・新谷・玉川・平田・藤代町・モナーク三島・ウィスティリア三島青木
北中学校	文教町西・加茂川町1区・加茂川町2区・シャルマンコーポ・老町田1丁目・老町田2丁目・県営老町田やまがみ団地・東老町田・シャリエ三島老町田・かわせみタウン老町田
北上中学校	芙蓉台
中郷中学校	大場（伊豆箱根線路西側）・多呂
中郷西中学校	松本・安久
山田中学校	加茂・市営加茂住宅・小沢・初音台・三恵台・初音
三島北高等学校	芝本町・一番町・中央町・中央町2区・文教町2丁目・大宮町1丁目・大宮町3丁目・文教町東岩崎
三島南高等学校	大場（伊豆箱根線路東側）・三島パサディナ・東大場
三島長陵高等学校	JR 新幹線滞留旅客
楽寿園（広域避難地）	滞留客、観光客および楽寿園内外の人

江戸時代の さおばかり はかりざ 桿秤と秤座

一月二十四日(土)から開催予定の企画展「はかる道具」に合わせ、郷土資料館が所蔵する江戸時代の桿秤を紹介します。

長さや重さなどの「単位」の安定は人々の生活や経済活動に欠かせないものでした。徳川幕府も社会の安定のため、単位の統一と計量器具の統制を図ります。当時、重さを量る道具には桿秤と天秤があり、幕府は桿秤における秤座の特権を江戸の守随家と京都の神家に与えました。これにより両家は製造・販売・修理を独占し、秤の検査として秤改を実施しました。

守随家・神家はそれぞれ東西十三力国を管轄していました。伊豆国は守随家の管轄する東国三十三力国に含まれています。

写真①は銀の粒などの小さなものを量る銀秤と呼ばれるもので、百六十匁(六百グラム)まで量ることができるとのことです。皿の部分

に「御秤屋 天下一 守随(花押)」とあり(写真②)、守随家によって製作されたものであることがわかります。錘を見てみると、一文

字目が読み取りにくいのですが「得(花押)」と刻まれています(写真③)。十七世紀後半の守随家に「正得」という当主がおり、これを指していると思われる。また、「天下」の刻印は元禄年間(二六八八〜一七〇四)の初めごろに廃止しています。これらのことから、この秤は今から三百年以上も前の江戸時代前半に作られたのだとわかります。現在、江戸時代以前の秤はほとんど残っていないため、この秤はたいへん貴重なものだと言えそうです。

写真④は神家の

銀秤のケースです。瓢箪型になっていて、よく見るとたくさんの印が押してあります。この印は秤座による秤改の時に検査に合格したものに押される「改印」です。秤改は非常に権威があり、検査料や不合格の際の修繕料も安くはなかったため、秤改を受ける町や村の住民は苦労したそうです。

「改印」は数年〜二十年程の間隔で行われる秤改のたびに変更されるこのケースに押されているものうち確認できた最も古いものは享和元年(一八〇一)のものでした。通常は秤そのもの(皿や桿の部分)に押されるものでケースに押す必要はありません。しかし、このように改印が押されたケースはよく見られるようで、秤の装飾と権威づけのために持ち主が頼んで押し

てもらったのではないかと、言われています。



▲写真①守随家の秤



▲写真③錘

▲写真②皿



▲写真④神家の銀秤のケース



ふるさとの人物ゆかりの地⑩

福井雪水

福井雪水は、文化十一年(一八一四)七月、三島宿長谷(現在の太社町)に生まれます。江戸で有名な儒学者に学び、天保九年(一八三八)三島に戻り、自宅に漢学塾「千之塾」を開きます。千之塾は約三十年間続けられ、山口余一や箕田寿平など明治期の田方・三島地域を支える多くの逸材を輩出しました。

幕末の国家多事の際に、諸藩は争って雪水を招こうとしました。それには応じませんでした。維新後には、新政府により大学の教官である中博士に任命されています。多くの門人を世に送り出した雪水は、明治三年(一八七〇)五月、満五十五歳で生涯を閉じ、妙行寺(日の出町)に眠ります。著書には明治十九年(一八八六)箕田寿平の息子により出版された「雪翁遺草」が残されています。



▲福井雪水筆跡(雪翁遺草より)